

## (地域・社会貢献研究)

# 障害者の一般企業への就職を導くスタッフの変容に関する研究 —精神障害者の就職・定着へのIPSと対話の支援に着目して—

片山 優美子\* 中尾 文香\*\*

Yumiko KATAYAMA Ayaka NAKAO

### 研究実績の概要

#### ①本研究の背景と目的

精神障害のある人(以下、精神障害者)の社会生活への復帰において、就職とは最も重要な位置を占め、就職支援に関する研究は極めて深いテーマであり、喫緊の課題である。精神障害者の就職支援は、援助付き雇用(Supported Employment)やIPS(Individual Placement and Support:個別職業紹介とサポート)など支援者が、精神障害者と雇用主の間に仲介して支援する方法が就業率に有効性を示しており、海外では職場の定着においても有効性が示されている。研究として最も質の高いシステムティック・レビューやメタアナリシスが示されているコクランレビュー(Crowther et al:2001a,2010;Kinoshita et al:2010)やBritish Medical Journal(Crowther et al:2001b)では、対象者が重症度の高い精神障害者でも就職の効果が公表されている。日本でも、2005年から研究チームACT(Assertive Community Treatment:包括型地域生活支援)においてIPSプログラム研究が導入され、個別就労支援を実施し、精神障害者の就職に結びついている報告が成されている(西尾:2005)。IPSは国際的に科学的根拠をもつ実践(EBP:Evidence based-practice)として扱われており、近年のIPSに関するメタ分析では、従来の施設訓練型の就職支援と比較して、重度の精神障害者でも就職日数や就職時間、収入などを増加させると公表されている(Crowther et al:2001)。また、4年以上の長期にわたるIPS研究の追跡をシステムティック・レビューした結果、介入としてIPSを利用した精神障害者の40-70%が研究期間中に少なくとも1度は就職を経験していることが明らかとなった(片山(高原)ら:

2013)。しかし、就労移行支援事業所の約3割は就職率0名(厚生労働省:2015)をみると我が国ではIPSはいまだに一般化されているとは言い難い。

だが、我が国でIPSの実践をしている病院の精神科デイ・ケアと就労移行支援事業所では、いずれも重症度の高い精神障害者の就職が認められている(片山:2017)。IPSの要素は、精神障害者の就職支援に関する方法論を示唆することが期待できる。

フィンランド発祥のダイアログには早期ダイアログ(Eriksson E, Arnkil TE:2009)、未来語りのダイアログ、オープンダイアログ(Seikkula J, Arnkil TE:2006=2016)があり、いずれも会話ではなく対話(ダイアログ)を重要視したアプローチである。特にオープンダイアログは、精神疾患の発症予防や再発予防の効果が示されているアプローチであり、コクランレビューでも取り上げられた科学的根拠を持つ実践の一つである(Pavlovic RY, Pavlovic A, Donaldson S:2016)。このダイアログは、近年のわが国でも研究がはじまりつつあるものの、障害者の就職支援に取り入れた研究は散見されていない。おそらく我が国初の研究となると考えている。そのため、本研究では、IPSの要素とダイアログのアプローチを取り入れた就職支援の研究を行うことを目的とする。

#### ②本年度の研究実績と来年度以降の研究予定

①精神障害者の就職における先進的支援を実施している機関(施設・企業)への訪問調査を実施した。来年度は、質的分析を行い結果を公表する予定である。

②障害者の支援に興味のある施設・企業に対する組織の体験型研修を実施し、講座前後の調査を

実施した。来年度は、調査結果を分析し結果を公表する予定である。また、講座参加対象者に6か月後の追跡調査を行う予定である。

- ③長野県中小企業家同友会の協力を得て、障がい者雇用を含めた人材困難者に対する受入れ状況を把握するアンケートの素案を作成した。来年度は、長野県中小企業家同友会の協力を得てアンケート調査を実施する予定である。
- ④障害者の雇用に関する文献レビューを実施したため、紀要に投稿し、発表する予定である。
- ⑤来年度はこれまでの調査の分析を行い、学会発表および論文投稿を行う予定である。

### ③本研究の意義および重要性:

精神障害において重度精神障害者に対する一般企業への就労支援は科学的根拠をもつ実践としてIPSがあるものの、発達障がいに関する就労支援はまだ科学的根拠をもつ実践は成されていない。しかし、IPSを基に発達障害者を対象とした就労移行支援事業所が我が国にあり、その就労移行支援事業所の就職実績は100%であった。本研究は意義があると考えられる。

### —引用文献・参考文献—

- Crowther RE, Marshall M, Bond GR,(2001a) Huxley P: Vocational rehabilitation for people with severe mental illness. *Cochrane Database of Systematic Reviews*,2,
- Crowther RE, Marshall M, Bond GR, Huxley P. (2001b) Helping people with severe mental illness to obtain work: systematic review. *BMJ*, 322:204-208
- Crowther, R. E., Marshall, M., Bond, G. R., et al. (2010) Vocational rehabilitation for people with severe mental illness. *Cochrane Database of Systematic Reviews*, 2.
- Kinoshita, Y., Furukawa, T., Omori, I., et al. (2010) Supported employment for adults with severe mental illness: protocol. *Cochrane Database of Systematic Reviews*, doi: 10.1002/14651858.CD008297. (<http://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1002/14651858.CD008297/abstract>. 2012.11.01)
- 西尾雅明(2005) 新たな地域精神保健福祉ACT-J. 独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構障害者職業総合センター 資料シリーズNo31 「新たな地域精神保健福祉の動向:日本におけるACT(包括型地域生活支援)プログラムでの取り組み」, 独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構障害者職業総合センター, pp7-43.
- Eriksson E, Arnkil TE.(2009) Taking up One's Worries A Handbook on Early Dialogues. National Institute for Health and Welfare=Terveyden ja hyvinvoinnin laitos. pp1-59
- 片山(高原)優美子, 山口創生, 種田綾乃, 吉田光爾 (2013)精神障害者の援助付き雇用および個別職業紹介とサポートに関する効果についての長期的な追跡研究のシステマティック・レビュー. *社会福祉学*,54(1):28-41頁
- 片山優美子(2017)重度精神障害者の一般企業への就職と定着支援に関する研究—Individual placement and Supportの有効性に関する量的・質的調査—, 東洋大学大学院 博士後期課程 社会福祉学博士論文.総頁数289頁
- Seikkula J, Aaltonen J, Alakare B, Haarakangas K, Keränen J, Lehtinen K.(2006) Five-year experience of firstepisode nonaffective psychosis in open-dialogue approach: Treatment principles, follow-up outcomes, and two case studies. *Psychotherapy Research* 2006;16(2):214-28.
- Seikkula,J., & Arnkil , T.E.(2006)Dialogical Meetings in Social Networks. (=高木俊介, 岡田愛訳 (2016)オープンダイアログ.日本評論社.総頁数248頁)
- Pavlovic RY, Pavlovic A, Donaldson S.(2016) Open Dialogue for psychosis or severe mental illness. *Cochrane Database of Systematic Reviews*.

## 研究発表(平成30年度の研究成果)

(雑誌論文) 計( 1 )件

著 者 名	論 文 標 題				
片山 優美子、 中尾 文香	発達障害者雇用の介入に関する文献レビュー(仮)				
雑 誌 名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	
長野大学紀要(予定)	無	41	2019		

